



東北大学脳科学グローバル COE 主催

Tohoku Neuroscience Global COE Basic & Translational Research Center for Global Brain Science



第3回 脳カフェ 杜の都で脳を語る

2009.7.12 sun.

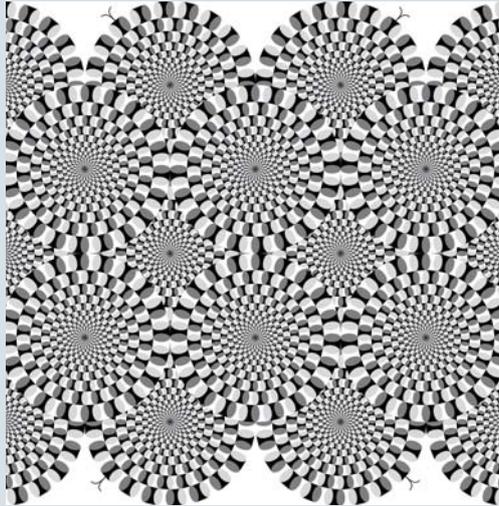
14:00 - 16:30 (13:00開場)

せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア ※入場無料 (予約不要)



北岡 明佳 (立命館大学教授)

錯視を起こす脳のメカニズム を考える

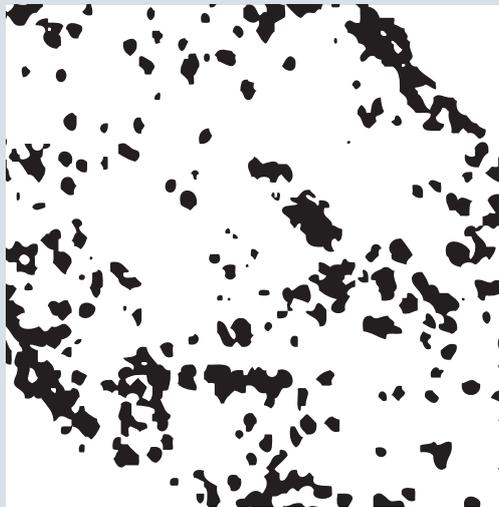


「蛇の回転・モノクロ版」画像提供：北岡 明佳

【Program】

- 14:00 開会
- 14:05 北岡 明佳
『錯視を起こす脳のメカニズムを考える』
- 14:45 Q&A
- 15:00 休憩・展示案内
- 15:30 福田 光則
『脳科学から美白へのアプローチ：
肌や髪の毛が黒くなる仕組み』
- 16:10 Q&A
- 16:30 閉会

※トークセッション前後に、関連した内容の展示を行います。(～17:00まで)



福田 光則 (東北大学大学院生命科学研究所教授)

脳科学から美白へのアプローチ： 肌や髪の毛が黒くなる仕組み

先着 **250** 名様限定

1ドリンク(コーヒー)
無料サービス

主催：東北大学脳科学グローバルCOE, NPO法人脳の世紀推進会議
協賛：財団法人しんゆう会
※本企画は世界脳週間2009の一環として行われます。

【お問合せ】東北大学脳科学グローバルCOE拠点事務局
TEL: (022)717-7908 FAX: (022)717-7923
E-mail: nsgcoe-s@med.tohoku.ac.jp URL: <http://ja.sendaibrain.org/>

【アクセス】せんだいメディアテーク (仙台市青葉区春日町2-1)
地下鉄 / 勾当台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分。
仙台市営バス / 仙台駅前-29番乗り場から「定禅寺通経由交通局大学病院」
行きで約10分、メディアテーク前下車



『錯視を起こす脳のメカニズムを考える』

錯視とは視覚性の錯覚のことであり、大脳視覚皮質が引き起こす現象と考えられる（錯視の種類によっては網膜説も根強い）。錯覚とは、実在する対象の真の性質とは異なる知覚のことである。どちらかという、十分与えられるわけではない情報から対象の真の性質が再現できることの方が不思議なのであるが、特定の刺激配置になると発生する知覚の歪み（錯視）も不思議なものである。今回のプレゼンテーションでは、いろいろな錯視の例を示しつつ、それぞれの錯視に脳のどの領域がどのように関与しているかを考えてみたい。



北岡 明佳（きたおか あきよし）

立命館大学文学部教授。高知県生まれ。筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了、教育学博士。財団法人東京都神経科学総合研究所（現：財団法人東京都医学研究機構）の主事研究員として、二ホンザルの大脳視覚皮質の電気生理学的研究やヒトの知覚研究に従事後、2001年立命館大学文学部助教授、2006年より現職。現在の専門は知覚心理学。特に、錯視の実験心理学的研究と、錯視デザインの創作を得意とする。第9回ロレアル色の科学と芸術賞の金賞。日本認知心理学会第3回独創賞。著書に、「トリック・アイズ」シリーズ（2002～2008年、カンゼン）、「現代を読み解く心理学」（2005年、丸善）など。

『脳科学から美白へのアプローチ：肌や髪の毛が黒くなる仕組み』

私達の体は何十兆個もの細胞により成り立っており、私達が個体として生きるためには、細胞同士のコミュニケーションが不可欠です。例えば、脳においては神経細胞同士がネットワークを形成し、記憶や学習を可能にしています。私達の研究室では、神経細胞同士の情報交換を分子レベルで理解することを目指していますが、細胞同士の情報交換は何も神経細胞に限ったものではありません。例えば、メラノサイト（メラニン色素を作る細胞）とケラチノサイト（皮膚を作る細胞）の間ではメラニン色素が受け渡され、肌が黒くなります。メラニン色素の輸送の仕組みの解明には実は脳科学からのアプローチが大いに役立っています。脳カフェでは、私達が解明した最新のメラニン色素輸送の仕組みをご紹介します。



福田 光則（ふくだ みつひり）

東北大学大学院生命科学系研究科教授。1996年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。医学博士。1996年日本学術振興会特別研究員(PD)、1998年理化学研究所脳科学総合研究センター研究員、2002年独立行政法人理化学研究所・福田独立主幹研究ユニットユニットリーダーを経て、2006年より現職。専門は、細胞生物学、神経科学。

東北大学脳科学グローバル COE について



東北大学は、脳神経科学に長い伝統を持っています。戦前には布施現之助が解剖学で世界に伍す成果を出したことから始まり、近年、脳画像技術でも強みを発揮してきました。最近になって、2001年に設立された生命科学系研究科には脳神経科学を専門とする多くの研究者が結集し、医学系研究科等とあわせて東北大学は一大拠点となっています。東北大学脳科学グローバルCOEは、複数の研究科・研究所に分散している脳神経科学者たちを結集し、協力して次代を担う若い研究者を教育・育成しながら世界的なレベルの研究を推進し、またその成果を常に社会と共有していくというプロジェクトです。